

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070900875		
法人名	社会福祉法人福岡愛心の丘		
事業所名	グループホーム愛心		
所在地	福岡市博多区月隈6丁目16番11号 (電話)092-503-9008		
自己評価作成日	令和5年7月31日	評価結果確定日	令和5年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護理念「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」を職員が理解し実践している。施設は純和風の造りをしており、居室は畳部屋で高齢者が心地よく生活できるよう環境を整えている。各職員は、ご利用者本位のサービスを提供することを目標としており、日常生活においてはご利用者の個々のペースを把握し、起床・食事・入浴時間において固定せず、可能な限り希望通りのサービスが提供できるように配慮している。また、ご利用者が退屈しないようにレクリエーションや季節感を感じていただける行事を催したりホームでの生活が楽しいものとなるように取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和5年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

郊外の丘陵地に位置し、事業所から市内を見渡すことができる。敷地内には特別養護老人ホームやケアハウス、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所が併設している。法人全体で福祉関連相談を受ける体制を構築している。建物の1階には地域サロンがあり、2階がグループホームとなっている。建物は、和風作りで旅館のような雰囲気があり、木の良さを活かし、天井も高く自然光を取り入れている。ホールでは利用者同士の会話も活発で、家庭的な雰囲気がある。最近、車いすで避難できるように改修工事を行い、災害対策を強化している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」を理念に掲げている。定時の申し送り時に理念を再確認するとともにスタッフ間で共有し、日々の業務に携わっている。	開設当初から「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」という理念を掲げ、職員が目につく所に掲示し、朝礼で唱和している。コロナ禍のため地域との繋がりは控えていたが、理念の実践に向けて、今後法人会議で検討予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため地域との交流を実施できていない。今後感染状況を確認しながら近隣の行事に参加していきたい。	町内会に加入している。回覧板は町内会長が持参し、自由に見ることができる。コロナ禍前は校区運動会や地域のもごころサロン等に参加したり、近隣の小学生と苗植えをして交流を図っていた。今後は感染状況を見ながら、交流できる企画を検討している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が介護相談センターを設置し、地域の方が介護全般の相談を行える場所を提供している。以前は地域交流会や、近隣施設や病院と協力してサロンを開催していたが新型コロナウイルス感染症予防のため実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のなかで事例発表やご利用者の状況を報告している。また、会議のなかで頂いたアドバイスや意見を取り入れサービスの向上につとめている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。構成員は、利用者・家族・地域包括支援センター職員・保護司・福祉事業関係者となっている。利用者状況報告や行事報告・予定、避難訓練報告等を議題としている。出された意見をサービス向上に活かすようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの方に参加していただいている。また困りごとがあれば積極的に相談するように努めている。	日頃から行政へ運営に対する相談や連絡を電話やメールで行っている。運営推進会議でも報告・相談は行っているが、それ以外でも必要に応じて行政と意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設方針で身体拘束は実施していない。身体拘束廃止マニュアルを作成し閲覧できるようにしている。法人内で身体拘束の研修会を行い研修会で得た内容をマニュアルに反映できるように努めている。	玄関や居室は施錠していない。身体拘束に関するマニュアルを整備し、身体拘束適正化のための指針がある。2ヶ月に1回、法人で身体拘束廃止委員会を開催し、職員に資料を回覧して周知している。年2回、研修会を開催し、研修資料・報告書を保管している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	全職員は法人内で行われる研修で高齢者虐待防止について学ぶことができる。また、これまで事例はないものの虐待を発見した場合は迅速に対応ができるように体制を整えている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員は法人内で行われる研修で権利擁護に関する制度について学ぶ事ができる。入居の際には成年後見制度について説明をおこなっている。またご家族の希望があった際は支援、協力を行っている。	契約時に成年後見制度や日常生活自立支援事業について説明している。利用相談がある場合は、管理者が窓口となって対応している。職員研修は年2回開催しており、研修資料・報告書を保管している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書及び重要事項説明書を用い読み合わせを行いながら十分な時間を使い説明を行っている。また料金改定があった際などは事前にご家族に説明を行い納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的で開催される運営推進会議ならびに担当者会議でご本人、ご家族に意見を聞く機会を設けている。	利用者が日常的に意見や思いを職員に伝えられる機会がある。コロナ禍による面会制限に対して家族から面会の希望があったため、職員会議及び法人会議で検討し面会制限を緩和している。面会の時に職員は家族から意見を聴くようにし、申し送りノートで共有している。出された意見については、管理者が検討した結果を家族に電話で報告している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りまた、法人内で定期的にアンケートを実施し業務に反映させている。	朝礼で業務に対する意見や相談を聴いている。業務中も職員の気づき等がある場合は意見を聴いている。3ヶ月に1回、職員に業務改善アンケートを配布し、法人代表者や管理者はアンケート結果を運営に反映させるよう努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に労務担当者と個別面談を行い職員がやりがいをもって働けるように環境整備につとめている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては年齢、性別に制限は設けておらず幅広い層より採用をおこなっている。	職員の採用にあたっては、性別等を理由に採用対象から外していない。無資格・未経験者や外国人雇用も行っている。希望に応じて資格取得希望がある場合は、法人がバックアップしている。定年はあるが、希望に応じて継続して働くことも可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時のオリエンテーションで接遇を学ぶ機会を設けている。また定期的に接遇や高齢者虐待に関する資料を配布しご入居者に対しての言葉づかひや対応について学ぶ機会を設けている。	年間研修計画を作成し、人権について研修を実施している。今年度は高齢者虐待防止に関する研修を実施した。新任職員に対しても常に人権に関する研修を行っている。研修資料及び研修報告書を保管している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染予防のため集団での研修は実施できていないが月に1度資料を配布し全職員に目を通してもらっている。経験や能力に応じてグループホーム内の役割や担当を振り分けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防のため近隣の事業所との交流は避けている。今後オンライン研修などに積極的に参加するとともに感染状況を見ながら以前行っていたサロンを実施する予定。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人と必ず面談を行い要望をお聞きし信頼関係の構築に努めている。またミーティングを行い職員間で情報共有しご本人が安心して生活できるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族よりご要望や不安なお事をお聞きしている。ご家族様とよく話し合いを行い信頼関係構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご家族ご本人の要望をお聞きしどのような生活を望んでいるか把握するように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で炊事、洗濯、掃除のお手伝いをして頂き生活している。職員はご本人の意見に耳を傾けひとりひとりにあった支援をさせていただいている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防のためご家族をお招きしての行事が行えていない。毎月お手紙や写真による近況報告やご家族との面会時にご様子を報告、情報共有を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の受診支援を行ってはいるが、個人の外出支援は感染予防のため実施できていない。	事業所への携帯電話の持ち込みが可能で、電話をかけることができない利用者に対しては、職員が支援している。また、年賀状や暑中見舞いの作成を支援する等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ミーティング等を通じて職員はご利用者様の関係を把握し、未然にトラブルを防ぐように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族のご希望があれば併設事業所への入所の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員はご本人やご家族との会話の中でご本人の意向をくみ取り、希望にあった生活ができるように支援行っている。	入居時に利用者や家族からの聞き取りをもとに希望や意向の把握に努めている。利用者の希望や要望等はフェースシートやアセスメントに記載し、介護支援計画に反映して職員間で共有している。また、職員は利用者の言葉や表情から利用者の真意を推し測ったり、確認するようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の情報やご入所者の日常より職員は日頃からご入所者の生活歴や好みを把握できるように努めている。また職員同士で情報共有することでより良い支援ができるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日行われるバイタル測定の結果や日ごろの表情などに注視し支援を行っている。また軽作業やレクレーション、生活支援の中でご本人のできる事を発見した時は情報共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは幅広く意見を募り行っているその意見をもとに担当者会議にてご家族にも意見をお聞きしご入所者が安心・安全に生活できるように介護計画を作成することに努めている。	入居時点で暫定プランを策定し、3ヶ月～6ヶ月を目途に見直している。同時にモニタリング等で、実施状況の確認を行っている。介護計画の作成にあたっては、利用者や家族、関係者の意見を反映しながら、利用者本位の計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の細かい事についても記録に残すように努めている。毎日申し送りを行い伝達を行っている。問題点があれば改善までのプロセスを検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入所者の状態に合わせて個別支援を行ったり、スタッフの勤務時間を調整し柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策のため地域との交流はできていないが、入所以前に利用していた病院や薬局には引き続き利用ができるように支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関してはご本人、ご家族のご希望を尊重し、それぞれの主治医と連携をとりながら健康管理を行っている。	かかりつけ医について入居時に希望を聴きとり、医療機関を決定している。利用者や家族が訪問診療を希望する場合は、訪問診療に変更することができる。訪問診療及び訪問歯科診療は、月2回となっている。他科受診は原則家族対応となっており、情報の伝達方法等について話し合っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師を配置していないが、訪問診療時の看護師と情報共有を行っている。状況に応じて併設特養の看護師に相談を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	電話やFAXによってご入居者の情報を治療の経過や現在の状況について情報を得ている。又、退院時は必ずご本人の状態確認に外向き情報収集を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居希望時や入居契約時に施設で出来る事出来ない事をご本人ご家族に説明し了承をいただいている。重度化した場合は主治医に相談し連携を強化するとともにスタッフ全員が情報共有している。当施設での生活が続けられなくなった場合主治医や病院と連携して受け入れ先を探している。	入居時に事業所としての重度化や終末期の対応方針について、利用者や家族に説明を行い同意を得ているが、対応方針は明文化されていない。重度化した際は、利用者家族や主治医との連携を強化し、スタッフ間で情報の共有を行っている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針を明文化することに期待したい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は対応について理解している。マニュアルを作成し研修の機会を通じて実践力の向上を目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月に夜間を想定した火災訓練と6月に土砂災害を想定した訓練を行った。定期的に資料を配布し防災に対する知識を習得できるように職員一同努めている。感染予防の為地域の方の参加は見送っているが、今後は感染状況を見極めながら地域の消防団にご協力を仰ぎ災害対策をすすめていきたい。	消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。消火器の取り扱いや通報訓練、避難場所の確保、土砂災害や夜間想定避難訓練等に取り組んでいる。今後は地域連携の観点から、消防団との連携を検討している。非常用食料や備品は、隣接の法人本部で一括保管している。	災害時に孤立した場合を想定して、事業所内に食料品や備品の準備をお願いしたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の対応については日頃より個人の気持ちを尊重して対応している。また個人情報に関わる書類などは鍵がかかるロッカーに保管している。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保等については、接遇研修やミーティング等で共有し、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中でご利用者の思いを引き出せるように心掛けている。ご本人様が自己決定できるようにご利用者との関係を築いている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などを考慮しご本人の意思を尊重しそれぞれの時間を決定している。個別の外泊支援は感染対策の為行っていない。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはその日の着たい洋服を選んでいただいている。化粧はご本人が使い慣れたものを使っていただき自室や共用の洗面所をお使いいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒になって料理の準備（皮むきや盛り付け）や後片付け（皿洗いなど）を行っている。またその人に合わせた食事形態や食べやすい器を使っていただくなど工夫を行っている。以前は職員も一緒に食事をとっていたが現在感染対策の為行っていない。	利用者は食事の準備や片付け等を職員と一緒にしている。栄養士が献立を作成し、食事のメニューに利用者の好みを反映させる等、食事が楽しみなものになるよう配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は管理栄養士が栄養のバランスをチェックしている。毎食後の摂取量をチェックしている。不足のあるご利用者には主治医と相談し補助食品の提供やご本人の好みにあわせる様に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、見守り、介助をおこなっている。訪問歯科医と連携を行い口腔内の清潔保持に努めている。歯科診療情報提供書をもとに職員はご入居者の口腔状態の把握に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンを把握しご本人にとってストレスがないような排泄ができるように見守り、介助、声かけを行っている。介助の際はご本人の残存機能をいかし、できる所はしていただく様にしている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターン、習慣等を共有しながら支援している。排泄状況の評価検討を行い、自立に向けた排泄支援に努めている。また、紙パンツから布パンツに改善した事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し職員全員がご利用者の状態を確認している。便秘気味のご利用者には体操や軽い運動、水分摂取の声かけを行う様にしている。また主治医とも相談し改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の体調や血圧を考慮しながら支援を行っている。入浴拒否がある方は、時間帯、や支援者を交代するなどご本人の苦痛とならないように配慮している。	基本3日に1度入浴しているが、希望がある場合はいつでも入浴可能である。職員は入浴支援を利用者とのコミュニケーションの場としても大切にしている。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯をする等、利用者が入浴を楽しめるように支援している。入浴後の保湿ケアや脱衣場のヒートショック対策も行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせて休憩していただいている。夜間不眠時はお話を傾聴したり職員とすごしていただくなど安心して休んでいただけるように支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は必ず書面と口頭で申し送りを行い職員全員が情報共有出来るようにしている。また日々の状態観察とともに変化がある際は服薬方法も含め主治医に相談を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	4月には花見を行い外出支援を行えたが、感染対策を継続中であるため個別の支援はできていない。レクリエーションを工夫したりデザートバイキングを行ったりなど楽しみが増えるように試みている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のためご家族との病院受診以外での個別支援は行えていない。季節感を感じていただけるように施設周辺の散歩は行っている。	散歩コースがいくつかあり、天候や体調を考慮しつつ日常的に散歩を行っている。気分転換も含めて、天候の良い日はテラスでの日向ぼっこや併設施設での移動販売等が楽しみの一つとなっている。感染症対策のため、外出は可能な範囲で実施している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお預かりしている。本人の意思が強い場合はご家族に説明し紛失の危険性などを説明した上でご了承いただいた上で所持していただいている。感染対策のため個別での外出支援を行えてはいないが、希望者には野菜の移動売店などの施設内で買い物を行っていただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はご家族や友人に電話をかけるお手伝いを行っている。年始には年賀状を作っていたくように支援を行っている。ご友人からお手紙があった際は返事を書いていただけるように支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのディスプレイは季節感を感じていただけるように担当職員が作成している。またご入居者の聴力等を考慮して心地よい空間を演出するためにテレビ、CDの音量や席の配置を行っている。	共用空間は、天井が高く明るい環境である。廊下は広く、歩行リハビリにも活用されている。2ユニットを効率よく活用して、工夫して居心地の良い共有空間作りを行っている。ピアノやテラスがあり、生活感や季節感への配慮がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースなどを設けてご利用者同士の交流の場としたり、廊下にソファを設けて気軽に休んでいただいたりなど工夫して居場所を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた家具などやご本人がなじみのある物を置いている。音楽が好きなお利用者はプレイヤーを置いたりなど趣味のものを取り入れ自由に使っていただいている。また安全面に考慮し安全バーの設置も行っている。	居室は、家族と相談して持ち込まれた馴染みの家具、調度品、写真等が配置され、居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、職員の呼び出しボタンや洗面台が設置され、衛生面や安心への配慮もある。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の生活スペースを把握し、事故が無いように配慮している。また各ご入居者の居室も転倒事故がないように環境づくりをおこなっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」を理念に掲げている。定時の申し送り時に理念を再確認するとともにスタッフ間で共有し、日々の業務に携わっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため地域との交流を実施できていない。今後感染状況を確認しながら近隣の行事に参加していきたい。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が介護相談センターを設置し、地域の方が介護全般の相談を行える場所を提供している。以前は地域交流会や、近隣施設や病院と協力してサロンを開催していたが新型コロナウイルス感染症予防のため実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のなかで事例発表やご利用者の状況を報告している。また、会議のなかで頂いたアドバイスや意見を取り入れサービスの向上につとめている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの方に参加していただいている。また困りごとがあれば積極的に相談するように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設方針で身体拘束は実施していない。身体拘束廃止マニュアルを作成し閲覧できるようにしている。法人内で身体拘束の研修会を行い研修会で得た内容をマニュアルに反映できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	全職員は法人内で行われる研修で高齢者虐待防止について学ぶことができる。また、これまで事例はないものの虐待を発見した場合は迅速に対応できるように体制を整えている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員は法人内で行われる研修で権利擁護に関する制度について学ぶ事ができる。入居の際には成年後見制度について説明をおこなっている。またご家族の希望があった際は支援、協力を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書及び重要事項説明書を用い読み合わせを行いながら十分な時間を使い説明を行っている。また料金改定があった際などは事前にご家族に説明を行い納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的開催される運営推進会議ならびに担当会議でご本人、ご家族に意見を聞く機会を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りまた、法人内で定期的アンケートを実施し業務に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な労務担当者や個別面談を行い職員がやりがいをもって働けるように環境整備につとめている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては年齢、性別に制限は設けておらず幅広い層より採用をおこなっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時のオリエンテーションで接遇を学ぶ機会を設けている。また定期的に接遇や高齢者虐待に関する資料を配布しご入居者に対しての言葉づかいや対応について学ぶ機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染予防のため集団での研修は実施できていないが月に1度資料を配布し全職員に目を通してもらっている。経験や能力に応じてグループホーム内の役割や担当を振り分けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防のため近隣の事業所との交流は避けている。今後オンライン研修などに積極的に参加するとともに感染状況を見ながら以前行っていたサロンを実施する予定。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人と必ず面談を行い要望をお聞きし信頼関係の構築に努めている。またミーティングを行い職員間で情報共有しご本人が安心して生活できるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族よりご要望や不安なことをお聞きしている。ご家族様とよく話し合いを行い信頼関係構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご家族ご本人の要望をお聞きしどのような生活を望んでいるか把握するように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で炊事、洗濯、掃除のお手伝いをして頂き生活している。職員はご本人の意見に耳を傾けひとりひとりにあった支援をさせていただいている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防のためご家族をお招きしての行事が行えていない。毎月お手紙や写真による近況報告ご家族との面会時にご様子を報告情報共有を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の受診支援を行ってはいるが、個人の外出支援は感染予防のため実施できていない。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ミーティング等を通じて職員はご利用者様の関係を把握し、未然にトラブルを防ぐように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族のご希望があれば併設事業所への入所の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員はご本人やご家族との会話の中でご本人の意向をくみ取り、希望にあった生活ができるように支援行っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の情報やご入所者の日常より職員は日頃からご入所者の生活歴や好みを把握できるように努めている。また職員同士で情報共有することでより良い支援ができるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日行われるバイタル測定の結果や日ごろの表情などに注視し支援を行っている。また軽作業やレクリエーション、生活支援の中でご本人のできる事を発見した時は情報共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは幅広く意見を募り行っているその意見をもとに担当者会議にてご家族にも意見をお聞きしご入所者が安心・安全に生活できるように介護計画を作成することに努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の細かい事についても記録に残すように努めている。毎日申し送りをを行い伝達を行っている。問題点があれば改善までのプロセスを検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入所者の状態に合わせて個別支援を行ったり、スタッフの勤務時間を調整し柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策のため地域との交流はできていないが、入所以前に利用していた病院や薬局には引き続き利用ができるように支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関してはご本人、ご家族のご希望を尊重し、それぞれの主治医と連携をとりながら健康管理を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師を配置していないが、訪問診療時の看護師と情報共有を行っている。状況に応じて併設特養の看護師に相談も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	電話やFAXによってご入居者の情報を治療の経過や現在の状況について情報を得ている。又、退院時には必ずご本人の状態確認に出向き情報収集を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居希望時や入居契約時に施設で出来る事出来ない事をご本人ご家族に説明し了承をいただいている。重度化した場合は主治医に相談し連携を強化するとともにスタッフ全員が情報共有している。当施設での生活が続けられなくなった場合主治医や病院と連携して受け入れ先を探している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は対応について理解している。マニュアルを作成し研修の機会を通じて実践力の向上を目指している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月に夜間を想定した火災訓練と6月に土砂災害を想定した訓練を行った。定期的に資料を配布し防災に対する知識を習得できるように職員一同努めている。感染予防の為地域の方の参加は見送っているが、今後は感染状況を見極めながら地域の消防団にご協力を仰ぎ災害対策をすすめていきたい。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の対応については日頃より個人の気持ちを尊重して対応している。また個人情報に関わる書類などは鍵がかかるロッカーに保管している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中でご利用者の思いを引き出せるように心掛けている。ご本人様が自己決定できるようにご利用者との関係を築いている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などを考慮しご本人の意思を尊重しそれぞれの時間を決定している。個別の外泊支援は感染対策の為行っていない。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはその日の着たい洋服を選んでいただいている。化粧はご本人が使い慣れたものを使っていただき自室や共用の洗面所をお使いいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒になって料理の準備（皮むきや盛り付け）や後片付け（皿洗いなど）を行っている。またその人に合わせた食事形態や食べやすい器を使っていただくなど工夫を行っている。以前は職員も一緒に食事をとっていたが現在感染対策の為行っていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は管理栄養士が栄養のバランスをチェックしている。毎食後の摂取量をチェックしている。不足のあるご利用者には主治医と相談し補助食品の提供やご本人の好みにあわせる様に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、見守り、介助をおこなっている。訪問歯科医と連携を行い口腔内の清潔保持に努めている。歯科診療情報提供書をもとに職員はご入居者の口腔状態の把握に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンを把握しご本人にとってストレスがないような排泄ができるように見守り、介助、声かけを行っている。介助の際はご本人の残存機能をいかし、できる所はしていただく様にしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し職員全員がご利用者の状態を確認している。便秘気味のご利用者には体操や軽い運動、水分摂取の声かけを行う様にしている。また主治医とも相談し改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の体調や血圧を考慮しながら支援を行っている。入浴拒否がある方は、時間帯、や支援者を交代するなどご本人の苦痛とならないように配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせて休憩していただいている。夜間不眠時はお話を傾聴したり職員とすごしていただくなど安心して休んでいただけるように支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は必ず書面と口頭で申し送りを行い職員全員が情報共有出来るようにしている。また日々の状態観察とともに変化がある際は主治医に与薬方法も含めて相談を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	4月には花見を行い外出支援を行えたが、感染対策を継続中であるため個別の支援はできていない。レクリエーションを工夫したりデザートバイキングを行ったりなど楽しみが増えるように試みている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のためご家族との病院受診以外での個別支援は行えていない。季節感を感じていただけるように施設周辺の散歩は行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお預かりしている。本人の意思が強い場合はご家族に説明し紛失の危険性などを説明した上でご了承いただいた上で所持していただいている。感染対策のため個別での外出支援を行えてはいないが、希望者には野菜の移動売店などの施設内で買い物を行っていただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はご家族や友人に電話をかけるお手伝いを行っている。年始には年賀状を作っていただくように支援を行っている。ご友人からお手紙があった際は返事を書いていただけるように支援行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのディスプレイは季節感を感じていただけるように担当職員が作成している。またご入居者の聴力等を考慮して心地よい空間を演出するためにテレビ、CDや席の配置を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースなどを設けてご利用者同士の交流の場としたり、廊下にソファを設けて気軽に休んでいただいたりなど工夫して居場所を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた家具などやご本人がなじみのある物を置いている。音楽が好きなご利用者はプレイヤーを置いたりなど趣味のものを取り入れ自由に使っていただいている。また安全面に考慮し安全バーの設置も行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の生活スペースを把握し、事故が無いように配慮している。また各ご入居者の居室も転倒事故がないように環境づくりをおこなっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		